

あなたの推しエダマメをみつけませんか？～特色ある17品種のご紹介～

1. はじめに

エダマメは日本人になじみ深い野菜です。江戸時代である17世紀末には、枝についたままゆでた状態のものが売られており、庶民にファストフードのように親しまれていました。元々は大豆を若どりして食べており、次第に日本各地の風土や嗜好性に応じて様々な在来種が誕生しました¹⁾。2019年には年間66,100tのエダマメが国内で生産されているのに加え、77,569tが海外から輸入されています^{2,3)}。

野菜の中では嗜好性が高い品目であり、食味はもちろんですが、粒や莢の大きさ、莢色が改良されてきました。また、大豆は栽培地域により利用される品種が異なりますが、エダマメは同じ品種が北海道から沖縄まで、広範囲で利用されることが多いです。国内では4月下旬から11月頃まで産地リレーをしながらエダマメが収穫されており、環境適応性や耐病性なども改良され、全国各地で育てやすく、多様な美味しい品種が開発されてきています。

当社のエダマメ品種は現在17品種のラインナップがあり、それぞれに特色があります。今回はこれら品種の特徴についてキーワードとともにご説明します。

2. 歴史の長いレギュラー品種

昔から全国各地で食べられてきた、典型的なエダマメです。当社では極早生から中早生、中晩生と栽培目的に応じて品種を取り揃えております。これらを使い分けていただくことで長くエダマメ収穫を行っていただくことができます。

●サッポロミドリ

〈キーワード〉極早生、良食味、札幌伝統野菜

「サッポロミドリ」は現在販売している当社エダマメ品種の中で最も歴史が深く、初めての白毛エダマメ品種として開発され、2024年で50周年を迎えます。現在は北海道で冷凍加工用としても広く利用されており、皆様も一度は口にされているかもしれません。当社の北海道研究農場（夕張郡長沼町）の前



写真1 サッポロミドリの莢外観

身である上野幌育種場（札幌市）で育成され、札幌生まれのエダマメ品種として札幌市の伝統野菜にも指定されています。その血筋は現在でも多くの品種に受け継がれ、ルーツに「サッポロミドリ」を持つ当社品種は17品種中11品種にのびります。品種改良により大莢化が進んだ近年の品種に比べれば莢は小ぶりですが、豆がふっくらとして食欲をそそる外観が特徴です（写真1）。

●サヤムスメ

〈キーワード〉中早生、濃緑大莢、収穫適期の長さ

「サヤムスメ」は濃緑大莢の中早生品種で1990年に販売を開始し現在でも多くの生産者様にご利用いただいています。莢色が濃いというだけでなく、黄化（緑色の莢が黄色く変化すること）も遅いことか



写真2 サヤムスメの青果物

ら収穫適期が長いという特徴があり、出荷作業に時間のかかるエダマメにとっては非常に適しております。莢ははっきりと大きく、青果物としての見栄えに優れているため「サッポロミドリ」と並び、古くから皆様にご愛顧頂いている品種です（写真2）。

●**莢音** **PVP** 海外持出禁止（農林水産大臣公示有）
〈キーワード〉極早生、濃緑大莢、コンパクト

「サヤムスメ」の特徴である濃緑大莢はそのままに促成栽培に適するよう早生化した極早生品種です。コンパクトな草姿ですので、地力が強くて樹ばけする土地や、他の品種ではトンネル栽培で草丈が伸びすぎてトンネル資材に葉があたってしまう場合にもおすすめです。「サヤムスメ」や「莢音」ともに7月下旬以降に播種を行う抑制栽培にも適しており、播種期幅が広い品種です。

●**月夜音**
〈キーワード〉極早生、低温着莢性、促成栽培

低温着莢性が良好で莢数が多い極早生品種であり、ハウス・トンネル栽培での早出し出荷向けにおすすめです。移植栽培では極早生ですが、直まきすると中早生になります。

●**ユキムスメ**
〈キーワード〉中早生、良食味、多収

味の良さが魅力の中早生品種です。「サッポロミドリ」と並び、当社の中でも長く栽培していただいている品種です。莢はやや小ぶりですが莢数が多く、甘みがあり美味しい品種です。自家消費や家庭菜園にもおすすめです。

●**サヤコマチ**
〈キーワード〉中早生、着莢数、機械収穫

「サヤムスメ」の姉妹品種であり、機械収穫に向く草姿をしています。莢の大きさは「サヤムスメ」の方がやや大きいですが、1株当たりの着莢数は「サヤコマチ」の方が多いという特徴があります。熟期は「サヤムスメ」と同じ中早生ですが、一般地標準で「サヤムスメ」より1、2日早く収穫適期を迎えます。

●**サヤタカラ**
〈キーワード〉中早生、大莢、多収

「ユキムスメ」の食味の良さを受け継いだ、大莢で食味の良い品種です。エダマメは一般的に暑い時期になるほど莢が小さくなっていく傾向がありますが、「サヤタカラ」は暑い時期でも大莢を収穫することができます。しかし35℃をこえるような厳しい暑さでは太りが悪くなってしまうので、一般地では5月上旬までに播種を終えることがポイントです。

●**サヤニシキ**
〈キーワード〉中晩生、良食味、多収

当社ラインナップの中で、レギュラー品種で唯一の中晩生品種です。北海道南部から一般地で9月～10月収穫の作型に向いています。

3. 味にこだわった茶豆風味品種

昔から茶豆がエダマメ産地で親しまれてきましたが、莢色の黄化が早く、茶毛である外観、収穫時期が遅いなどの特徴がありました。2000年を過ぎた頃から、茶豆の香りや甘み・旨味はそのままに、莢色はより濃く、毛の色は白く、さらには初夏にも収穫できるよう品種改良した「茶豆風味」の品種が多く発表されました。当社では早晩が異なるリレー出荷可能な3品種「豊熟の味わいシリーズ」を販売し、ご好評いただいております。以下にご紹介している豊熟の味わいシリーズと、中晩生品種の「雪音」を使っていただくことで、食味のよいエダマメを絶やすことなく出荷することができます。

●**神風香** 登録品種名 GLYSB1021
PVP 海外持出禁止（農林水産大臣公示有）
〈キーワード〉極早生、低温着莢性、促成栽培

低温着莢性に優れた大莢の極早生品種です。ハウス・トンネル栽培などで早い時期から食味の良いエダマメを出荷したい方におすすめの品種です。3粒莢率が5割を超えることもしばしばあり、くず莢も少ないため秀品率の高い品種です。コンパクトな草姿をしていますので、やや密植気味にしたいだったり、2本立てで「とものばし（1穴に2本栽培することで競わせ、草丈を伸ばす方法）」したりして草丈を確保しながら栽培していただくことをおすすめしています（写真3、表1）。

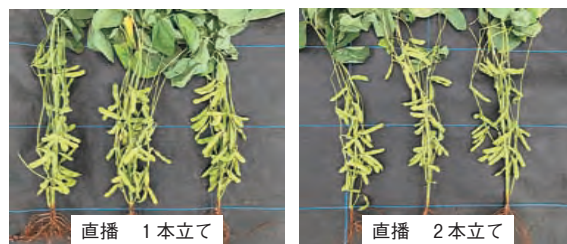


写真3 仕立て方による草姿の変化（神風香）
当社千葉研究農場 2021年4月23日直播

表1 仕立て方による神風香の草姿の変化

品種名/仕立て方	収穫適期	草丈 cm	主茎長 cm	最下 着莢位置 cm	節数	分枝数 本
神風香 1本立て	7月8日	64.0	27.2	2.8	7.6	4.4
神風香 2本立て	7月8日	83.4	41.6	6.2	8.4	3.0

播種日：2021年4月23日 直播
データは5株の平均値

（当社千葉研究農場）

●**味風香** 登録品種名 GLYSB1019

●**PVP** 海外持出禁止（農林水産大臣公示有）

〈キーワード〉早生、良食味、多収

「味風香」は豊熟の味わいシリーズの中でも特に食味に優れる早生品種です。後述の「夏風香」とともに、食味にこだわった茶豆風味の冷凍エダマメとして、品種名記載で販売されています（写真4）。果糖やショ糖などの遊離糖、アラニンといった遊離アミノ酸の含量が他品種に比べて高く、口にすると強い甘みと独特の旨味が広がります。早生ですが樹がしっかりとできるため機械収穫にも相性が良く、収量が高い品種です。レギュラー品種と比較してやや莢色が淡いため、こまめな段まきを行っていたとき、収穫適期を逃さないように栽培していただくことがポイントです。

●**夏風香** 登録品種名 GLYSB1020

●**PVP** 海外持出禁止（農林水産大臣公示有）

〈キーワード〉中早生、耐暑性、機械収穫

7月、8月収穫向きの中早生品種です。茶豆風味をもつ品種の中では莢色が濃く、比較的収獲に余裕をもっている品種です。夏どり作型では露地マルチ栽培や露地栽培など、株間をあける栽培が多いですが、夏風香は分枝が立性に仕上がるため、脱莢機や機械収穫時でも分枝が折れづらく、収穫ロスが少ないです。機械収穫時の莢離れの良さも魅力です。

●**雪音** ●**PVP** 海外持出禁止（農林水産大臣公示有）

〈キーワード〉中晩生、大莢、多収

「豊熟の味わいシリーズ」ではありませんが、中晩生品種の「雪音」も茶豆風味をもつ良食味品種です。食味の良さだけでなく莢の大きさ、収量性の点からもおすすめできる品種です。中晩生品種は開花に短日条件を要するため、播種が早すぎると徒長して倒伏しますので、6月以降の播種をおすすめしています。

4. 個性の光る茶豆品種

種皮が茶色い品種を「茶豆」といいます。当社には現在2品種の茶豆品種があります。

●**味太郎**

〈キーワード〉中早生、茶豆、立性

「味太郎」はいわゆる「茶豆」の特徴をもつ中早生品種です。従来の茶豆の中でも比較的熟期が早い中早生品種です。草姿が立性であるため扱いやすく、従来の茶豆産地以外でも栽培していただける品種で、茶豆のもつ香り、旨味、甘みを楽しんでいた品種です。早まきしすぎると徒長するため、



写真4 冷凍エダマメとして販売されている味風香

播種期を守っていただくことが栽培のポイントです。

●**恋姫** ●**PVP** 海外持出禁止（農林水産大臣公示有）

〈キーワード〉中早生、茶豆特有の香り無し、多収

茶豆の香りは特有で、特に昔からなじみのない地域の方はあまり好まない方もいらっしゃる。「恋姫」は、茶豆の甘み、旨味はそのままに、茶豆特有の香りをもたないよう育成され、より多くの方に食味のよいエダマメを楽しんでいただけるように開発しました。莢は大莢でふっくらとした形をしており食味良好で、栗のような食感をもつ個性のある品種です。毛の色は茶色ですが毛の量は少ないため、外観も通常のエダマメ品種と遜色ありません。また、茶豆の樹の強さを引き継いでおり、収量性の良さも魅力の一つです。特性を生かすため株間はしっかり確保し、1本ずつの樹をしっかり仕立ててください。一般地で4月以降の播種をおすすめしています。

5. 在圃性+αの青豆品種

枝豆の種子色は黄、緑、茶、黒と様々ですが（写真5）、大部分は黄、または黄緑が多いです。そんな中、種子になっても青さの残る「青豆」は、葉だけではなく莢色が青く保たれる期間が長いという特



写真5 種皮色の異なるエダマメ種子

徴があります。ただし色が青い期間が長くても収穫適期を過ぎると食味は低下していきますので、適期収穫を心がけてください。

●**青祭** GLYSB1023 農林水産省品種登録出願中
海外持出禁止（農林水産大臣公示有）

〈キーワード〉中早生、耐暑性、機械収穫

新発売の「青祭」は青豆であることに加えて耐暑性を持ち合わせており、暑い時期でも豆の肥大が良いという特徴があります。夏場の収穫に追われづらい品種です。また、着莢位置の高さ・立性な分枝も特徴ですので（写真6）、脱莢機・機械収穫にも適しています。ただし早まきや密植栽培には適していませんので、一般地標準で5月以降の播種を行い、株間をしっかりと確保した作付けを行うことがポイントです。

●**青雫** **PVP** 海外持出禁止（農林水産大臣公示有）
〈キーワード〉中生、多収、むき豆利用

当社品種の中で唯一の中生品種であり、他の中早生品種と同時に播種しても収穫期がずらせるため、収穫に追われる心配が少ないです。莢の大きさは小莢寄りですが莢数が多く、「サッポロミドリ」のような豆がふっくらとした莢をしています。また青豆としてエダマメ適期での豆の品質もよいため、むき豆としてもご利用いただけます。

●**青豊** **PVP** 海外持出禁止（農林水産大臣公示有）
〈キーワード〉中晩生、機械収穫、べと病抵抗性

分枝が立性で機械収穫に向く中晩生品種です。この品種は当社ラインナップの中で唯一、多くのレースに対するべと病抵抗性を持ち合わせています（写真7）。べと病にかかってしまった莢は内部が変色してしましますが（写真8）、出荷段階ではよく見なければ判断が付きづらく、選別に手間と時間がかかります。べと病が出やすい時期でも抵抗性品種を使っていただくことでこの選別作業を楽に行うことができます。品種改良の進んだ近年でも抵抗性のあるエダマメ品種は少ないのが実情です。栽培時期がべと病が発生しやすい梅雨時にあたりますが、中晩性品種でべと病抵抗性をもっている「青豊」はエダマメ栽培の強い味方となってくれるのではないのでしょうか。

6. おわりに

嗜好の多様化や栽培作型の広がりにともない、特色ある品種が育成されています。ぜひそれぞれの品種の特徴を知っていただき、作型や目的に合わせてお好みの品種を選んでいただけたらと思います。皆



青祭 サヤムスメ

写真6 着莢位置が高い青祭（9224黒マルチ）



写真7 多くのべと病レースに抵抗性を持つ青豊



写真8 べと病罹病莢

様の「推しエダマメ」を選ぶ一助になれば幸いです。

7. 参考文献・HP

- 1) 独立行政法人 農畜産業振興機構 「今月の野菜 えだまめ」 https://vegetable.alic.go.jp/yasaijoho/yasai/0809_yasail.html（2022年11月15日参照）
- 2) 農林水産省 令和元年野菜生産出荷統計
- 3) 独立行政法人 農畜産業振興機構 ベジ探 2019年版 野菜統計要覧